

---

# 聖なる夜に

珠城 綵

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

聖なる夜に

### 【Nコード】

N8134Z

### 【作者名】

珠城 緑

### 【あらすじ】

クリスマスSです。妹にドタキャンされた可哀想なおにいちやんの話。こんなこともあるんです。

とうとうこの日がやってきた。

「・・・クリスマスとか、オレには関係ねえし」

口に出して言うほど間抜けなことはないな、全く。

しかも、誰に食べてもらうわけでもなく料理やらケーキやらの準備しながら言う台詞でもない。

そもそもこんな予定じゃなかったんだ。

毎年毎年、暇だからって転がり込んでくる妹がさつきいきなり今年は彼氏とデートだから行かないとかメールしてきた。何も作つてないと怒るからつてしつかり食い物の材料用意してたのに、とは言えなかった。

・・・さすがに言えんだろ、兄としては。

にしても、こんだけ作つてどうするんだオレ。あ、ちなみにもうすぐ実家に戻る予定だから材料消費しないといけないというか、ふつー５時過ぎにメールいれるか畜生。

ちなみに、今日のメニューはというとだな。

・前菜：鯛のカルパッチョ

・スープ：ガスパチョ

・メイン：ローストチキン

・デザート：ホワイトチョコレートケーキ

その他チーズやらキッシュやらクロックムッシュやら・・・多いのは自分でもわかってるさ・・・。

さて、ほとんど作り終わってるんだが。さて、本当にどうしたのか・・・こんな時間に暇なヤツなんて・・・。

ぴーんぽーん

「え？」

なんだってこんな日に。とりあえず出てみるか。

「どちら様です・・・」

「おー！こーき居るじゃんー！開けるよ！」

インターホンに出ると悪友が2人映ってるのが見えた。正面にいる翔がすっげーテンションで手振ってるし。

「お前ら、何しに・・・」

「いいからいいから」

「さっさと開けるよ、寒いし」

後ろに居たのは悠みだ。

こいつら、暇だからって何しに来たんだ？

「わかったわかった、ちよつと待ってる」

仕方ないし、開けてやるか。

玄関に行って鍵を開けると、2人は大きな買い物袋持って扉の前に突っ立ってた。

「・・・まあ、入れば？」

「さっすがこーき！話し分かるわー。じゃ、お邪魔しまーす」

「邪魔するぜ」

玄関で立ち話するのもアレだからさっさと2人を部屋に上げる。

部屋に入ると、翔は何故か不満げな声を上げた・・・ってお前は何がしたいんだ？

「まゆちゃんいねーの？楽しみにしてきたのにい」

「せっかくサンタのコス衣装持ってきたんだが・・・」

それぞれがてきとーな事いうから、なんか頭痛くなってきたんだけど。

こいつら、さてはあまりに女っ気ないからうちに来たな。

「残念でした。アイツ今日はデートだから来ないぜ」

ざまーみろといった感じで言っちゃった。

だが、それにそこまで落胆した様子を見せずに奴らはテーブルの上を物色し始める。

「・・・じゃあ、なんでこんなに料理がある？」

ぐさっ

「まあ、かわいい妹のために頑張って作った後に連絡でも来たんじゃない？マジ残念過ぎるし・・・こーきが」

ぐさぐさっ

「そんなところか。じゃあ仕方がないからこの衣装は幸樹が着ればいいな。ちなみにミニスカサントだ、喜べ」

・・・っておい！

「なんでオレがそんなことしないといけないんだ！」

「面白いから」

「・・・・・・」

こいつら、本当に何しにきたんだ！？

「それはおいといて、俺らが来たから料理は全部片付くし寂しくもないだろー。感謝しろよなっ！」

「ちゃんと酒とつまみも持ってきたしな」

袋から酒いろいろとスナック菓子を並べてる2人は全く悪びれない。

なんとというか、こいつらなりに気を使ってるってのは分かってはいるんだがな。

「・・・幸樹、まだ何か作るものとかあるのか？そんなところに突っ立って」

悠が訝しげに言ってくる。奴はもうビール缶を開けようとしてるしって、準備早いだろっが！

「いや、もう終わって・・・」

「じゃあいいじゃん！さっさと飲もうぜ！マジで飯美味そうだしな

っ  
」

「・・・お前ら、本当にマイペースだな」

はぁ、ってひとつため息ついてオレも席に着いた。テキトーな缶を開けてって、あまりにも多過ぎやしないか？これ、20缶以上あるぞ、しかもビールばっかだし・・・。

「これ、麻友が居ること前提に買ってきてなくねーか？」

「だってまゆちゃんから電話あつて、兄貴がきつと一人でさびしくシングルベルしてるから遊びに行つてほしいって」

「へ？」

「いい子だよな。彼女も居ない可哀想なお兄ちゃんに気を使うなんてな」

「・・・お前にや言われたくないわ。というか、オレにはメールで翔には電話かよ」

つか、いつの間にメアド交換してるんだ、こいつ。

「あ、言っておくが俺もまゆのアドレス知ってるからな」

「もはや呼び捨てかよ」

「ということで、今日は『どきっ 男だらけのクリスマス！朝まで飲むぜスペシャル』をすることにしまーす！かんぱーい！」

「乾杯」

「・・・乾杯」

もはや何がなんだかわからないが、朝まで飲むらしい。

・・・メリークリスマス。

（後書き）

こんなクリスマスもある・・・かもしれないね（笑）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8134z/>

---

聖なる夜に

2011年12月25日22時50分発行